

2006 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">文献講読Ⅱ</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">文学部文財2 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">犬木 努</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">原書講読により諸外国の考古学の研究状況を学ぶ</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>日本では考古学は歴史学の一部であるのに対して、アメリカでは考古学は人類学の一部である。一口に考古学といっても国によって様々な特徴がある。本講義では英語文献を輪読し、異国の考古学の方法論や分析手法についての基礎的な知識を習得するとともに、日本考古学の現状を考える手がかりとする。</p>		
<p>評価方法</p> <p>①普段の出席状況、②授業中の英訳の正確さ、③学年末の筆記試験の点数によって評価をおこなう。</p>		
<p>テキスト</p> <p>授業時にプリント（テキスト）を配布する。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p>『プログレッシブ英和中辞典』</p>	<p>著者</p>	<p>出版社 小学館</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>Colin Renfrew、Paul Bahn "Archaeology"を読み進めていく。 事前に訳出箇所を割り当て、受講生全員に毎回、担当箇所を訳してもらう。</p> <p>※授業回数は学年末試験および予備日を含めて 30 回を予定している。 ※大学院進学を目指す学生はぜひ受講されたい。</p> <p>授業には、電子辞書ではなく、かならず普通の辞書を持参すること。また、辞書は、高校生向けの学習辞典などではなく、上記の「プログレッシブ英和中辞典」のような収録語数の多いものが望ましい。なお、自宅での予習に電子辞書を用いることはかまわないが、通常の英和辞典を日常的に使用することが英語力の向上に直結することをあらためて指摘しておきたい。</p>		